

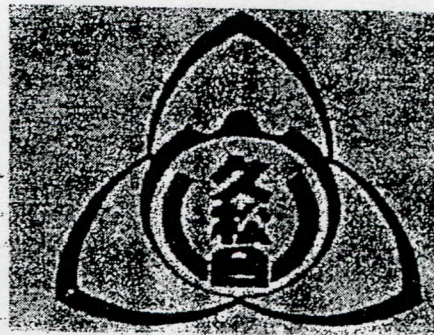
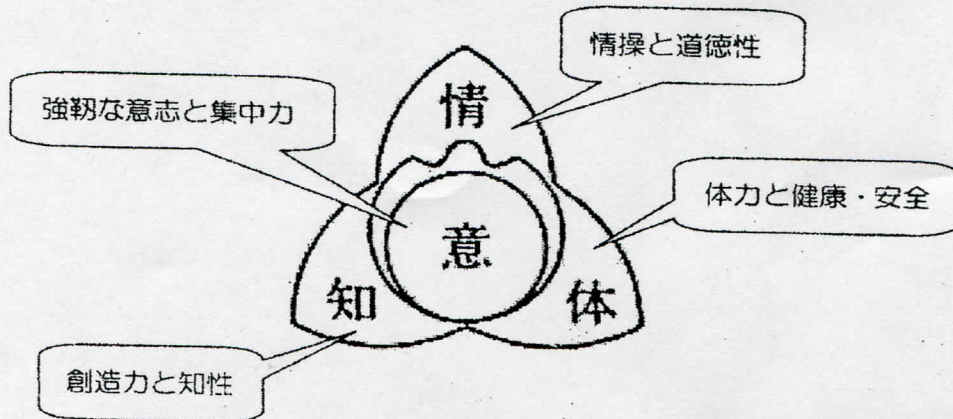
校章の由来と校歌

「元和8年8月(1622年),水野勝成が松寿長久の願いから「鉄覆山朱雀院久松城」を築城。戦火で焼け落ちたが,昭和41年(1966年)に再建された白亜の天守閣は,現在,福山市のシンボルとして美しい姿で建っている。その久松城の北方,海拔56メートルの丘陵地に久松台が新設された。そこには360余年もの歴史的時間の隔りがあるが,校章は新生久松台小学校の前途に栄光あれとの念願で作図された。」(久松台小学校10周年記念誌より)

- 1 校章の外輪は久松城初代城主水野勝成の紋所「おもだか」の花を配置。歴史的背景の重みを自覚しながら,「おもだか」の清純・可憐な白い花とたくましい生命力の「おもだか」のような人にといい願いから。
- 2 「おもだか」の花弁の中に市章の「こうもり」を円形に図案化し,平等・円満の意味を表現する。
- 3 福山市章の中心部に久松台と縦に配置,小の字の縦棒とし,左右の曲線を小の点と置き換え,久松台小と読む。そして,久松台小学校は多くの住民の力強い連帯で新しい時代を創造しながら邁進する姿を象徴する。

<校章と教育目標とのかかわり>

「自ら考え 正しく判断し 行動する 感性豊かな子ども」



久松台小学校校歌

いのちの輪となろう

作詞 清水 凡平
作曲 市川都志春

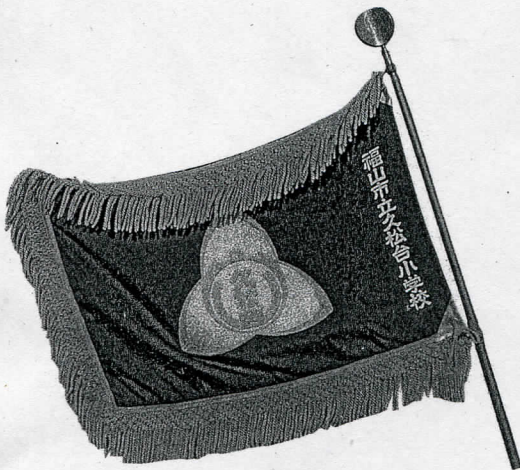
空に大きな心をえがく
あかるい希望
さわやかな明日
そしてそして
久松台の久松台の
伸よし笑顔

力をあわせて
いのちの輪となろう
たしかな現在をふみしめて
光のようにかがやこう

空に大きな心をひらく
ゆたかな地平
すばらしい未来
そしてそして
久松台に久松台に
ひびく歌声

校歌「いのちの輪となろう」

昭和56年（1981年）作詩・清水凡平先生、作曲・市川都志春先生により、児童の心を大切にしたりすばらしい校歌ができました。



校旗

濃紺琥珀織りに銀糸刺しゅうの台に、金糸刺しゅうの校章は、夜空にまたたく北極星のようです。北極星は方位を知るための大切な星です。校旗は、久松台小学校の教育推進上の北極星です。

“いのちの輪となろう”

清水 凡平 作詞
市川都志春 作曲

明るく *mf*

1. そらに おおきな ころをえがく
2. そらに おおきな ころをひらく

あかるい希望 さわやかなあす そして そして
ゆたかなちへい すばらしいみらい そして そして

mf *to* *♩*

ひさまっだいの ひさまっだいの なかよしえがお
ひさまっだいに ひさまっだいに

mf ち から を
タタカタタタタタ タンタンタン タタカタタタタタ

あわ せて い の ち の わ と な ろ う
タン タン タン タタカタタタン タタカタ タタン

たしかないまを ふみしめて ひかりのよう に

♩ *Coda*
か が や こ う ひびくうたごえ
D.C.